

# 薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！  
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ…



2020年  
3月18日  
第81号



## アンズ（バラ科）

今、薬木区西の山崎川沿いの木々の中で、見上げると青空をバックに淡紅かった白い小花が見られます（この写真では見にくいですね）。奈良時代以前に渡来した中国原産の落葉樹で、現在は果樹として長野県などで栽培されています。初夏に熟す橙黄色の果実の種子を生薬：杏仁（きょうにん）といい、鎮咳去痰薬（キョウニン水の原料）として用いられます。また、漢方では止咳平喘薬として麻黄湯、麻杏甘石湯などに、瀉下薬として潤腸湯などに配合されます。種子から搾取した油（キョウニン油）は、軟膏基剤として化粧品などに用いられます。なお、杏仁（あんにん）豆腐の原料に使用するアンズと薬用のアンズとは、品種が異なります。果実は生食でもよいのですが、ジャムやシロップ漬け、果実酒などに利用し、爽やかな酸味と香りを楽しませてくれます。第一圃場横では、この花によく似たアーモンドの花も今咲いています。

## ホトケノザ（シソ科）

最近、園内で草取り作業をしていると、下唇が舌べらを出したような姿の赤紫色の小花をアチコチでよく見かけます。北アメリカ原産の越年草で輪生する花を仏様に、上部の葉は蓮華座になぞられ、この名があります。日本では主に雑草扱いで、薬用とする習慣はありませんが、中国では全草を宝蓋草（ほうがいそう）の名で、清熱、活血薬として使用するようです。内服では煎じて黄疸、高血圧、顔面神経麻痺、半身不随に使用するほか、外用で四肢や筋骨の痛みなどに利用されているそうです。

なお、「春の七草」にある「仏の座（ほとけのざ）」は、キク科のコオニタビラコで、これとは別の種になります。これを食べても、美味しくありませんよ！

今、こんな草木が  
楽しめます！！